

I 岡山大学の理念、目的、目標等／博士前期及び後期課程の教育の基本的目標／養成する人材像 卒業認定・学位授与の方針(ディグリー・ポリシー)／教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

岡山大学の理念、目的、目標等

1 岡山大学の理念 “高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していかなければなりません。岡山大学は、公的な知の府として、高度な知の創成と的確な知の継承を通じて人類社会の発展に貢献します。

2 岡山大学の目的 “人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。

このため、我が国有数の総合大学の特色を活かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

3 岡山大学の目標

(1) 教育の基本的目標

岡山大学は、大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。
これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

(2) 研究の基本的目標

岡山大学におけるあらゆる活動の源泉は、先進的かつ高度な研究の推進にあります。
常に世界最高水準の研究成果を生み出すことをその主題とし、国際的に上位の研究機関となるよう指向します。

(3) 社会貢献の基本的目標

社会が抱える課題を解決するため、総合大学の利点を活かし、大学の知や技術の成果を社会に還元すると同時に、積極的に社会との双方向的な連携を目指します。

(4) 経営の基本的目標

研究、教育の目標を効果的に達成するため、大学に賦存する人材、財政、施設設備などの資源をトップマネジメントにより戦略的に利活用します。

(5) 自己点検評価の基本的目標

公的機関として社会への説明責任を果たすため、研究、教育、社会貢献、管理運営のすべての分野において不断の自己点検評価を実施し公表するとともに、その結果を的確に大学改革に反映します。

4 教育の基本的目標

大学院医歯薬学総合研究科博士前期課程薬科学専攻

医歯薬学総合研究科薬科学専攻博士前期課程は、学部4年制課程を修了し、創薬・育薬に関する基礎知識を基盤として、医薬品創製を中心とする薬科学の専門知識を習得し、創造性豊かで国際社会において高く評価される研究力を備え、教育・研究機関、産業界、衛生行政などの分野における課題解決に貢献できる人材の育成を行います。

大学院医歯薬学総合研究科博士後期課程薬科学専攻

医歯薬学総合研究科薬科学専攻博士後期課程は、博士前期課程を修了し、創薬・育薬に関する専門知識を基盤として、医薬品創製を中心とする薬科学の高度な専門知識を習得し、創造性豊かで国際社会において高く評価される研究力を備え、教育・研究機関、産業界、衛生行政などの分野で主導的役割を果たす人材の育成を行います。

5 養成する人材像

大学院医歯薬学総合研究科博士前期課程薬科学専攻

すべての人の健康の確保のために創薬・育薬の専門力を駆使する先進的研究者

創薬・育薬および関連分野を先導し、広く人類の健康に貢献する国際水準の研究と教育を推進しています。これらの研究・教育活動を通じて、創薬および育薬領域で活躍するために必要な教養・学識と専門性、さらには、社会ニーズに応える実践力と自ら成長し続ける探求心を有し、得られた成果を社会に還元するコミュニケーション力を備えた課題解決型人材を養成します。

- 以下、5つの力を持つ人材を養成します。
- 解決策を論理的に考案できる実践力
 - 客観的・論理的に判断できる探究力
 - 発信・議論できるコミュニケーション力
 - 個々の知識を統合的に理解できる力
 - 幅広い視野と豊かな教養力

大学院医歯薬学総合研究科博士後期課程薬科学専攻

すべての人の健康の向上のため最先端の創薬・育薬研究を主導する先駆的研究者

創薬・育薬を中心とする薬学および関連分野を先導し、広く人類の健康に貢献する国際水準の研究と教育を推進しています。これらの研究・教育活動を通じて、深い教養と高度な専門性、さらには、社会をリードする実践力と自ら成長し続ける探求心を有し、得られた成果を世界に発信できるコミュニケーション力を備えた、薬学および関連分野の研究者や大学教員、高度な専門性を有する行政職員として社会の要請に応える人材を養成します。

- 以下、5つの力を持つ人材を養成します。
- 論理的に考案し、多面的な検討から新知見を得ることができる実践力
 - 独創的に解明できる探究力
 - 成果を発信、議論できるコミュニケーション力

- 個々の知識を統合して発揮できる専門力
- 問題点を整理し、課題解決に結びつけることができる教養力

【参 考】

岡山大学管理学則

(大学院の目的)

第53条 岡山大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

2 大学院のうち、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的としたものは、専門職大学院とする。

6 卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

大学院医歯薬学総合研究科博士前期課程薬科学専攻

医歯薬学総合研究科薬科学専攻博士前期課程では、創薬・育薬および関連分野を先導し、広く人類の健康に貢献する国際水準の研究と教育を推進しています。これらの研究・教育活動を通じて、創薬および育薬領域で活躍するために必要な教養・学識と専門性、さらには、社会ニーズに応える実践力と自ら成長し続ける探求心を有し、得られた成果を社会に還元するコミュニケーション力を備えた課題解決型人材を養成します。そのため、以下の資質・能力を身に付けることを求めます。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】 解決策を論理的に考案できる実践力

社会が直面する多様な課題に対して科学的根拠に基づく解決策を論理的に考案できる

【探究力】 客観的・論理的に判断できる探究力

専門的技能を持って課題に取り組み、成果を客観的・論理的に判断できる

【コミュニケーション力】 発信・議論できるコミュニケーション力

得た知見や成果を適切に分析し、研究室、学会、社会に対して双方向的に発信・議論できる

【専門力】 個々の知識を統合的に理解できる力

薬科学研究の遂行に必要な専門知識や技能を習得し、個々の知識を統合的に理解できる

【教養力】 幅広い視野と豊かな教養力

幅広い視野と豊かで国際的な教養を身につけ、それらを広く活かせる

医歯薬学総合研究科薬科学専攻博士前期課程では、上記の資質・能力に加え、与えられた研究課題を適切に解決できる基本的な研究遂行能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、学位論文にまとめた研究成果が学位授与の水準を満たした者に修士の学位を授与します。

大学院医歯薬学総合研究科博士後期課程薬科学専攻

医歯薬学総合研究科薬科学専攻博士後期課程では、創薬・育薬を中心とする薬学および関連分野を先導し、広く人類の健康に貢献する国際水準の研究と教育を推進しています。これらの研究・教育活動を通じて、深い教養と高度な専門性、さらには、社会をリードする実践力と自ら成長し続ける探求心を有し、得られた成果を世界に発信できるコミュニケーション力を備えた、薬学および関連分野の研究者や大学教員、高度な専門性を有する行政職員として社会の要請に応える人材を養成します。そのため、以下の資質・能力を身に付けることを求めます。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】論理的に考案し、多面的な検討から新知見を得ることができる実践力

社会が直面する広汎かつ複雑な課題に対して薬科学の知識を統合して科学的根拠に基づく解決策を自ら論理的に考案し、多面的な検討から新知見を得ることができる

【探究力】独創的に解明できる探究力

培った専門力を駆使して創薬・育薬に関する課題の本質に迫り、独創的に解明できる

【コミュニケーション力】成果を発信、議論できるコミュニケーション力

成果を専門誌で世界に向けて発信し、様々な場面において議論できる

【専門力】個々の知識を統合して発揮できる専門力

創薬・育薬開発に関する研究を自ら遂行するための高度な専門知識と技能を習得し、個々の知識を統合して発揮できる

【教養力】問題点を整理し、課題解決に結びつけることができる教養力

薬学研究者として幅広い視野と豊かで国際的な教養を身につけ、創薬・育薬を取り巻く世界情勢を理解し、今後の問題点を整理し、課題解決に結びつけることができる

医歯薬学総合研究科薬科学専攻博士後期課程では、上記の資質・能力に加え、創薬・育薬および関連分野を先導する知のプロフェッショナルにふさわしい世界水準の広い学識と、研究課題を自ら設定し、自立して研究を遂行できる研究者としての高度な研究能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、学位論文にまとめた研究成果が学位授与の水準を満たした者に博士の学位を授与します。

7 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院医歯薬学総合研究科博士前期課程薬科学専攻

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、医歯薬学総合研究科薬科学専攻博士前期課程として以下の方針および考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針と教育内容および方法の考え方

【教育の実施方針】

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

・自らの課題を様々な角度から検討し、考えの異なる人と協働しながら課題解決へと導くために

必要な知識や技能を身に着ける共通教育として、コースワークでは初年次に、研究科共通科目で、薬科学学位プログラムの概要や学修目標、研究倫理や情報セキュリティなどについて学ぶ概論科目、文理横断的な思考力や統率力を養う科目を提供します。また、大学院レベルの教養教育科目も初年次に大学院共通科目として提供します。これらの科目によって【教養力】を養います。その後、自身が深めた専門分野に加えて、その周辺分野を結びつけ統合することで得られる知識や技能を身につける専門教育として、基礎薬学（物理・化学・生物）、生命科学、臨床薬学系の専門科目の中から、学生の専門性に応じて必要な科目を選択履修することで、薬学研究に関する専門的な知識や情報を体系的に修得し、リサーチワークに生かすプログラム専門科目を提供します。加えて、学際的な専門分野にも対応するため、他専攻の相互履修科目や創薬・データサイエンス系科目を提供します。これらの科目によって【専門力】を養います。

・リサーチワークの研究指導科目として、情報収集・計画立案・研究の実施と記録を行う実習科目と、自身の研究過程・成果および研究課題に関連する論文報告について論理的・批判的に検証・考察して発表する演習科目を提供します。それぞれの専門分野での学びを社会実装などに繋ぐための統合型演習も提供します。これらの科目によって【実践力・探求力・コミュニケーション力・専門力】を養います。

さらに、多言語での研究活動や実践現場での活動を想定して、学会等で日本語だけでなくさまざまな言語での発表や交流する機会をもつことを推奨するため、国際学会での発表を推奨する授業科目も提供します。この科目によって【実践力・探求力・コミュニケーション力】を養います。

・正課外教育として、学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できるように、社会実装型科目を履修できる機会や研究室での活動の場を提供します。

【教育内容および方法の考え方】

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、医歯薬学総合研究科薬科学専攻博士前期課程では、ディグリー・ポリシーを実現するために以下の教育カリキュラムを編成し、以下の教育内容および方法を提供します。なお、学務委員会を中心として、教育方法の継続的な改善に取り組んでいます。

・コースワークでは、講義形式および演習形式の科目を提供します。演習形式の科目では、アクティブラーニングにより、学修者が主体的かつ能動的に学ぶことができる場を提供します。

・リサーチワークを行う上で、学生は各年次の始めに研究計画を自身で立てて指導教員に提出し、指導教員はそれに基づいて研究指導計画書を作成して学生に交付することで、研究指導計画を共有してリサーチワークを進めます。また、所属教育研究分野以外の教員を副指導教員として選定し、複数の教員による指導体制を構築しています。リサーチワークとしては、実習科目と演習科目、および統合型演習科目を提供します。

学修成果の評価方針

規定数以上の単位修得と、リサーチワークに基づく研究成果を纏めた学位論文の審査と最終試験によって学修成果を評価します。

大学院医歯薬学総合研究科博士後期課程薬科学専攻

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、医歯薬学総合研究科薬科学専攻博士後期課程として以下の方針および考え方に基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針と教育内容および方法の考え方

【教育の実施方針】

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

・自らの課題を様々な角度から検討し、考えの異なる人との協働で、その課題を実社会にあてはめ、独創的な課題解決を導くために必要な知識や技能を身につけ、また、課題の解決策を平易な言葉で説明できる技能も育てる共通教育として、コースワークでは、初年次配当の研究科共通科目で、薬科学学位プログラムの概要や学修目標、研究倫理や情報セキュリティなどについて学ぶ概論科目、薬学・生命科学領域の第一線で活躍中の研究者によるオムニバス講義を提供して、広範かつ先端的な知識を修得するとともにリサーチ・マインドを涵養します。さらに、大学院レベルの教養教育科目に位置づけられ、リサーチワークを進めるために必要不可欠な知識と技能の習得を目的とした授業科目を大学院共通科目として提供します。多様な学問領域に関心を持てるよう、学内で開催される講演会を授業とみなすこともあります。これらの科目によって【教養力】を養います。その後、自身が深めた専門分野の体系的な知識や技能、更に周辺分野も加えたそれらの統合的な知識や技能により、地球規模の課題と向き合って解決する策を創造できるように、薬学・生命科学領域で多岐にわたるプログラム専門科目を提供します。幅広い専門性に対応するため、他専攻所属の兼任教員の提供する授業科目や、他機関と共同で設置された連携大学院科目も提供します。これらの科目によって【専門力】を養います。

・リサーチワークの研究指導科目として、情報収集・計画立案・研究の実施と記録を行う実習科目、自身の研究過程・成果および研究課題に関連する論文報告について論理的・批判的に検証・考察して発表する演習科目を提供します。それぞれの専門分野での学びを社会実装などに繋ぐための統合型演習も提供します。これらの科目によって【実践力・探求力・コミュニケーション力・専門力】を養います。さらに研究の中間段階では、研究基礎力審査に相当する科目を提供します。それに加えて、多言語での研究活動や実践現場での活動を想定して、学会等で日本語だけでなくさまざまな言語での発表や交流する機会をもつことを推奨するため、国際学会での発表を推奨する授業科目も提供します。この科目によって【実践力・探求力・コミュニケーション力】を養います。

・正課外教育として、学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できるように、専攻を超えた異分野の授業科目を履修できる機会や研究室での活動の場を提供します。

【教育内容および方法の考え方】

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、医歯薬学総合研究科薬科学専攻博士後期課程では、ディグリー・ポリシーを実現するために以下の教育カリキュラムを編成し、以下の教育内容および方法を提供します。なお、学務委員会を中心として、教育方法の継続的な改善に取り組んでいます。

・コースワークでは、講義形式および演習形式の科目を提供します。演習形式の科目では、アクティブラーニングにより、学修者が主体的かつ能動的に学ぶことができる場を提供します。

・リサーチワークを行う上で、学生は指導教員との議論を通じて薬学および関連分野での先端的かつ独創的な研究課題を設定し、各年次の始めに研究計画を自身で立てて指導教員に提出、指導教員はそれに基づいて研究指導計画書を作成して学生に交付することで、研究指導計画を共有してリサーチワークを進めます。また、所属教育研究分野以外の教員を副指導教員として選定し、複数の教員による指導体制を構築しています。リサーチワークとしては、実習科目と演習科目、および統合型演習科目を提供します。

学修成果の評価方針

規定数以上の単位修得と、リサーチワークに基づく研究成果を纏めた学位論文の審査と最終試験によって学修成果を評価します。